



球磨村森電力

くまむらの未来につなぐ

“地域共生型の電力会社を目指して”

球磨村森電力は熊本県球磨郡球磨村との連携協定により設立した電力会社です

地域の魅力を維持・発展・創造したい

球磨村森電力(以下、球磨電)は、熊本県の県南に位置する球磨村で創業しました。球磨村には豊かな森林、球磨川や球泉洞など魅力的な観光資源がありますが、人口減少による地域経済の縮小という大きな課題があります。

こうした課題に対して、再生可能エネルギーの導入検討、地域の子ども向けの環境学習機会の提供、商店など業務施設の省エネ診断などを事業を“単発”として行ってきました。こうした取り組みは、“継続”して価値があるものですが、事業の関係上、“単発”でしか行うことができない課題がありました。

そこで、継続して地域での取り組みを行っていくために、球磨電を2018年2月26日に設立しました。

球磨村との連携協定に基づき、収益を地域の課題解決に再投資し、球磨村の魅力を維持・発展・創造していきたいと考えています。

事業拡大を通じて、地域課題の解決に貢献すること

村内の主要産業である林業は、長らくこの地域の雇用を支えてきました。これからも、林業を中心とした産業振興が重要です。同時に、新たな産業の創出も重要です。

球磨電は「再生可能エネルギー」を軸に、エネルギー原料としての林業との連携による産業振興、災害時の電力確保による安心提供、事業拡大を通じた雇用創出、地域連携による域内の稼ぐ力の向上など、地域課題の解決に貢献していきます。

傍観者にならず、主体者として、泥臭く行動し、感謝の気持ちを持ち続ける

問題点を指摘したり、批判することはとても簡単です。必要なことは、問題を提起し、その解決策を提示し、その解決策を実行していくことだと考えています。

傍観者には決してならず、主体者として、必要のない見栄やプライドは捨て、泥臭く行動していきます。

そして、成功した時も失敗した時にも、そこには必ず誰かの支えがあったことを忘れずに、感謝の気持ちを持ち続けます。

MESSAGE

MISISON

PRINCIPAL

電力
小売

九州電力、東京電力、沖縄電力エリアにて電力を販売しています。

球磨電では、創業の地である球磨村が位置する九州電力エリアに加え、東京電力エリア、沖縄電力エリアで電力を販売しています。

電気代を下げたい、CO2排出量を減らしたい、そんなニーズにお応えします。





再エネ 太陽光発電の無償設置サービス(PPA・第三者保有モデル)“ヤネエネ”を提供しています。

ヤネエネは電力供給の新しいスタイルでクリーンな電気をお届けします

球磨電では、再生可能エネルギーの普及に向けて、太陽光発電設備の無償設置サービス(以下、「PPA事業」として“ヤネエネ”を提供しています。

PPA事業とは、球磨電が屋根の上に無償で太陽光発電設備を設置し、電気を利用する方は、そこで発電された電力の利用料金を支払う仕組みです。

利用者は初期投資ゼロで、CO2削減と同時に電気料金を削減できる点が魅力的です。

東京都、茨城県、熊本県にて発電所が稼働しています。



電源
開発

太陽光発電により創られた電力の買取りや太陽光発電所の開発をしています。

●卒FIT電源の買取

球磨電では、東京・九州・沖縄電力エリアにおいて、「卒FIT電源」の買取を行っています。旧一般電気事業者よりも高値で買取りを行っています。

●FIT電源の買取

球磨電では、沖縄電力エリアにおいて、「FIT電源」の買取を行っています。「再生可能エネルギー電気特定卸供給」という仕組みを使い、FIT買取価格に加えてプレミアム料金をお支払いすることで、発電所の収益向上に貢献しています。

●太陽光発電所の開発

球磨電では、全国的に問題となっている「荒廃農地」を再生し、ソーラーシェアリング事業を行っています。ソーラーシェアリングとは、地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備を設置し、太陽光を農業生産と発電とで共有する取組です。

九州電力エリア

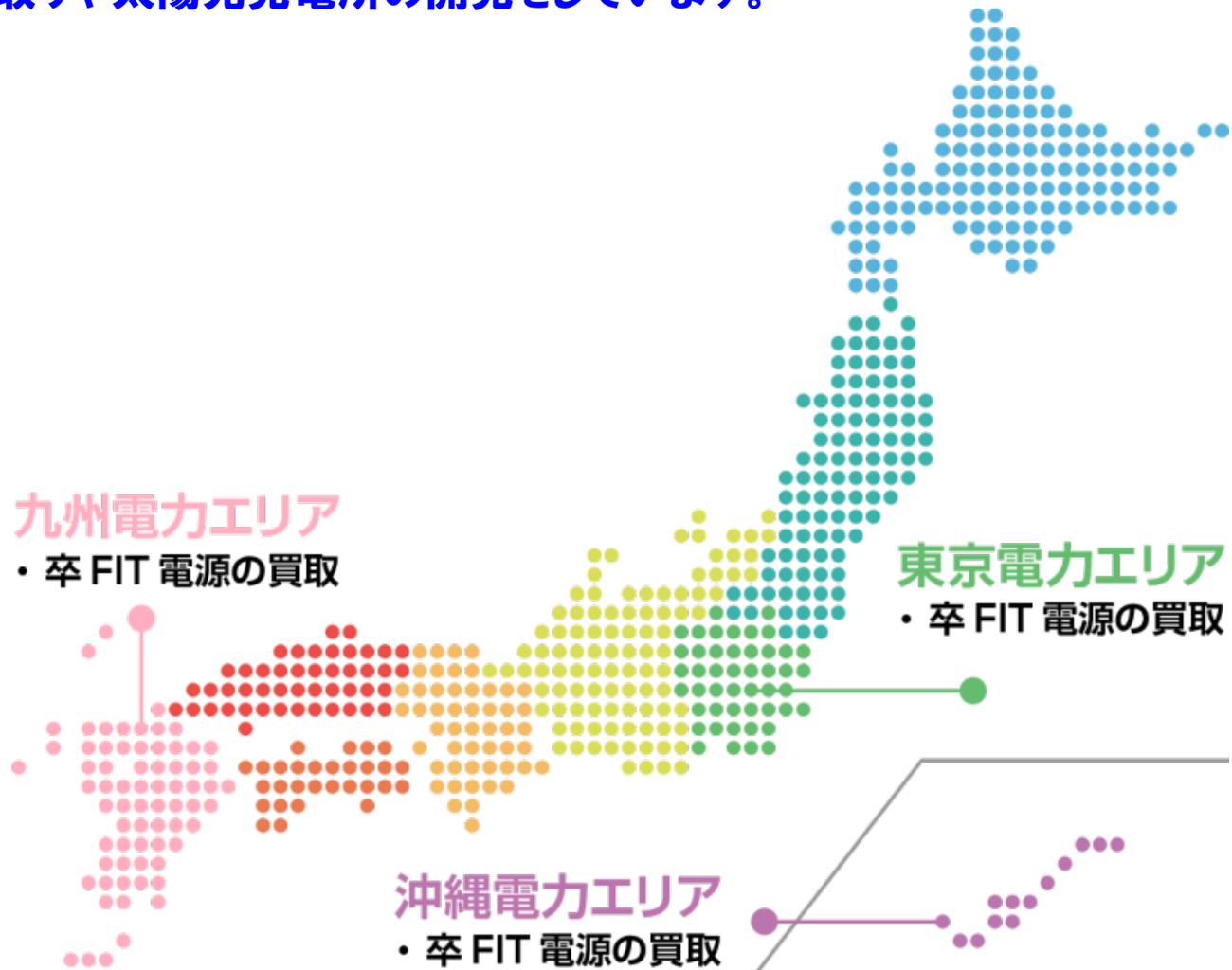
・卒FIT電源の買取

東京電力エリア

・卒FIT電源の買取

沖縄電力エリア

・卒FIT電源の買取
・FIT電源の買取
・ソーラーシェアリング



TOPIC

環境省が募集する脱炭素先行地域に第1回目で選定されました。

令和4年6月11日、球磨村役場様、球磨村森林組合様とともに、環境省「脱炭素先行地域」に選定されました。

球磨電では、村内のほぼ全域の「カーボンゼロ」の達成に向け、球磨電は「再エネの整備」、「再エネ電力の供給」を全面的に担います。

本事業による脱炭素を通じて、球磨村の創造的復興に貢献していきます。

脱炭素先行地域選定証

熊本県 球磨村
株式会社球磨村森電力
球磨村森林組合

貴団体の提案は2050年カーボンニュートラルに向けて地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素の実現の姿を2030年度までに示す優れたモデルであることから脱炭素先行地域に選定しこれを証します

令和4年6月1日

環境大臣

山口 壯



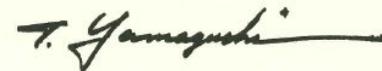
*Decarbonization Leading Area
Certificate*

*Kuma Village, Kumamoto Prefecture
Kumamurashindenryoku
Kumamura Forestry Association*

Your organization proposes an excellent model which shows a path toward decarbonization by FY2030 and regional revitalization. The proposal will eventually contribute to attaining the national target of carbon neutrality by 2050.

I hereby present your organization with this certificate of recognition as a Decarbonization Leading Area.

June 1st, 2022



*YAMAGUCHI Tsuyoshi
Minister of the Environment, JAPAN*

TOPIC

電力供給先と連携し、地域目線でのSDGsを推進しています。



- 電力供給である合志市の社会福祉法人で制作された木のおもちゃを球磨村の保育園におもちゃを贈呈
- これにより、障がい者の働くことの継続と中山間地域で運営の苦しい保育園の子どもたちの幼児教育の機会を提供



- 球磨電の収益の一部を活用し、球磨村の観光施設「球泉洞」において夏休みの小学生向けの環境学習イベントを支援
- 環境学習では温暖化の状況や冷房の省エネ方法などの学習がされ、学習後に、天然のクーラーである鍾乳洞の入場券を球磨電が提供



- 球磨電と球磨村との協定に基づき、球磨電の収益の一部を球磨村の施設整備等に活用する基金に拠出
- これにより、行政が進めるべきSDGs推進のパートナーとして球磨電が機能し、村内の継続的なまちづくりに寄与

持続可能なむらづくりの実現へ

株式会社森電力と協定

地域資源の有効活用等を中心としたむらづくりに関する協定式が4月10日、球磨村コミュニティセンター清流館で行われました。

協定締結相手方の株式会社球磨村森電力は、会社設立から1年ほどで、小売電気事業者として登録され、4月から村内の事業所への電力供給を開始しています。

中嶋崇史代表取締役は、「将来、村内で作られた再生可能エネルギーを村内で消費する仕組みづくりを探求することで、球磨村の活性化につながれば」と話しました。



会社概要

会社名	株式会社球磨村森電力 (くまむらしんでんりょく)	代表取締役	中嶋崇史
設立	2018年2月26日	資本金	100万円
TEL	0120-748-166	FAX	050-3153-3298
東京 オフィス	〒869-6401 熊本県球磨村郡球磨村大字渡乙1625-2(被災し移転準備中)		
東京 オフィス	〒102-0082 東京都千代田区一番町27-2 理工図書ビル3F		
九州 オフィス	〒866-0824 熊本県八代市日置町4763-12 09 SOHO 新八代駅前203		
主な取引先	球磨村役場、球磨村森林組合、環境省、株式会社グローバルエンジニアリング、九州電力送配電株式会社、株式会社サンジュニア その他多数		

お気軽にお問い合わせください。

MAIL

Info@kuma-den.com

TEL

0120-748-166

FAX

050-3153-3298

代表者プロフィール

概要

2013年4月、早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科博士後期課程修了 博士(工学)。
2011年から3年間務めた早稲田大学研究室ベンチャー企業の株式会社早稲田環境研究所の代表取締役を経て2014年4月に株式会社リクロスエクспанションを設立する。

2013年から6年間務めた早稲田大学環境総合研究センター客員次席研究員の経験を活かし、エネルギー・リサイクル分野のビジネスプロデュースを得意とし、地域新電力会社球磨村森電力(クマムラシンデンリョク)を設立し、事業の担い手としての活動に注力。

熊本県内においては、熊本市の地球温暖化防止活動推進センターの指定も受ける一般社団法人熊本環境革新支援センターの理事や、県南の市町村の再生可能エネルギーの導入戦略の立案に携わる。
球磨村では復興推進アドバイザーとして地域循環共生圏の視点から再生可能エネルギーを活用した地域活性化を推進する。

受賞歴

- 2008年:第10回 理工系学生科学技術論文コンクール 優秀賞
- 2009年:第11回 理工系学生科学技術論文コンクール 文部科学大臣賞、最優秀賞
- 2011年:早稲田学生文化賞
- 2012年:エコデザイン2012 優秀講演

委員等

- 一般社団法人熊本環境革新支援センター 理事(現職)
- 熊本県球磨郡球磨村 復興支援アドバイザー(現職)
- 早稲田大学環境総合研究センター客員次席研究員(2013年4月から2019年3月)
- 球磨村木質バイオマス事業化検討協議会 委員
- 八代市木質バイオマス利活用促進協議会 委員
- 自動車再生部品に関する規格ステアリンググループメンバー
- あさぎり町温泉施設における再生可能エネルギー導入に関する調査・計画策定委員会 委員長



球磨村：「脱炭素×創造的復興」によるゼロカーボンビレッジ創出事業

脱炭素先行地域の対象：三ヶ浦地区・神瀬地区・一勝地区全域、住生活エリア（災害公営住宅が大規模整備される村総合運動公園一帯）、
全村有施設、避難所に指定する民間業務施設群

主なエネルギー需要家：住宅(戸建て・集合合計937世帯程度)、村有施設26施設、高齢者福祉施設等の民間業務施設15施設

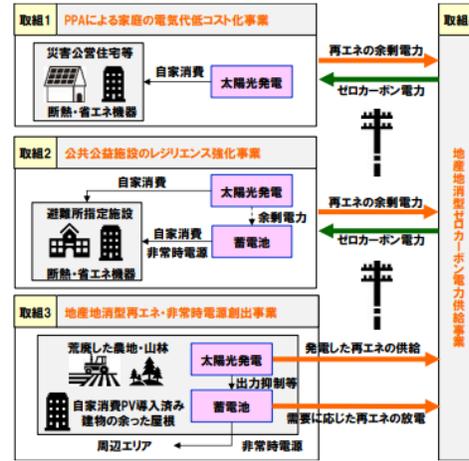
共同提案者：株式会社球磨村森電力、球磨村森林組合

取組の全体像

三ヶ浦地区・神瀬地区・一勝地区の全域と住生活エリア（災害公営住宅が大規模整備される村総合運動公園一帯）の民生需要家及び全公共施設等について、株式会社球磨村森電力と連携して、自家消費型太陽光・蓄電池をできる限り導入するとともに、**荒廃農地や林地等を活用した太陽光発電**による電力等を供給することにより脱炭素化を図る。また、同社と連携して、**林業加工施設など産業部門の脱炭素化**を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 先行地域の住宅・村有施設・民間施設について、**地域新電力「株式会社球磨村森電力」**が設置者となって、自家消費用の太陽光発電（屋根置き）や相対電源用の太陽光発電・蓄電池（屋根置きや**荒廃農地・林地等を活用**）を設置するとともに、各需要家との契約を推進し再エネ電力を供給
- ② 建物屋根の余剰スペースや荒廃農地・林地を活用して太陽光発電（1,987kW）・蓄電池を導入



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 令和2年7月豪雨による大規模被災から生業を再建した林業加工施設3施設について、屋上に太陽光発電設備・蓄電池を設置し、自家消費・相対契約による再エネ電力を供給し、林業の加工段階の脱炭素化を推進
- ② 荒廃農地等にソーラーシェアリングを導入し、再エネ電源を確保するとともに、栽培しやすい牧草などを近隣農家へ供給
- ③ 小中学校で使用しているスクールバス5台、役場公用車10台をEV化するとともに、充電インフラを計9カ所設置

3. 取組により期待される主な効果

- ① **令和2年7月豪雨からの復興**が最優先課題となっていることから、集合災害公営住宅をはじめ自家消費型太陽光発電設備を導入することにより、住民に**安価な電力を供給**しつつ、併設する業務施設の**レジリエンス強化**
- ② ソーラーシェアリングにより農家の高齢化に伴い荒廃した農地・林地を再生し、**獣害の減少や地域コミュニティを維持**するとともに、蓄電池を導入することにより**水害時に孤立しやすい地域の非常用電源を確保**

4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2030年度
村有施設太陽光設置(自家消費用)	実施						
災害公営住宅断熱設備導入		実施					
村有施設太陽光設置(相対電源用)			実施				
家庭向けを中心とした電力供給先の拡大				実施			
スクールバス・EV化、EV充電設備設置					実施		
エネルギーマネジメントシステム導入						実施	

“地域共生型の電力会社を目指して”

球磨村森電力は熊本県球磨郡球磨村との連携協定により設立した電力会社です

球磨村は、2022年に環境省「第1回脱炭素先行地域」に選定されました。
共同申請者である球磨村森電力は、球磨村で大規模に太陽光発電設備約2.5MW・蓄電池約2.2MWhの導入を行います。
この発電所の整備を通じた目標は以下の通りです。

- 村内のゼロカーボンの達成
- 村民の方々の電気代の削減
- 各集落のイベントへの協賛など地域への貢献

村内の電力需要の70～80%に相当する
再生可能エネルギーを整備します



再生可能エネルギーの供給方法の一例

